

誤解だらけの天文学史 ～「古代インドの宇宙観」を例に

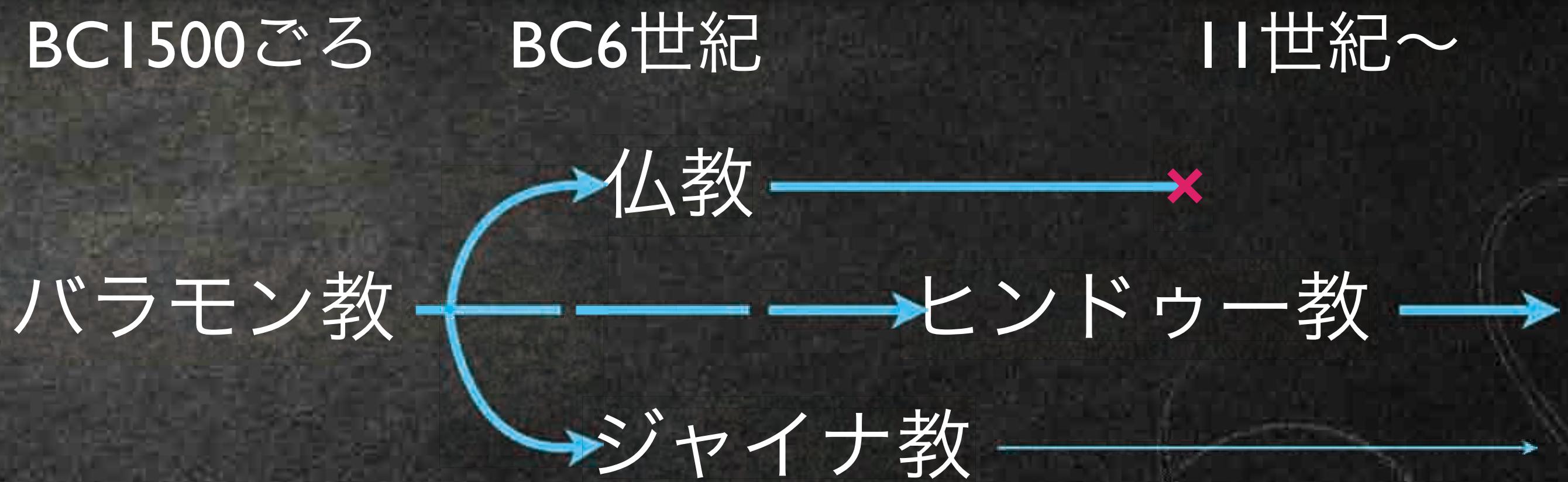
京都大学 大学院 文学研究科 博士後期課程 廣瀬 匠
研究テーマ：天文学史、特に古代インドの天文学
(星のソムリエ京都事務局 / 元アストロアーツWeb編集者 / 京都産業大学神山天文台学生ボランティアチームOB)

こんな事が書かれた
文献は古代インドに無い！

JSTのオンライン教材「理科ねっとわーく」より

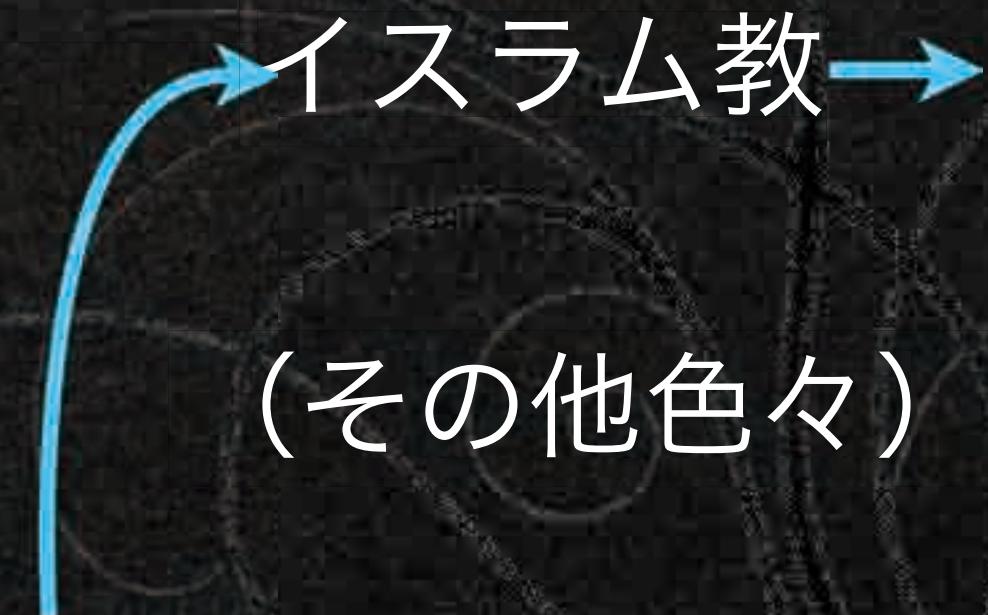
いわゆる
「古代インドの宇宙観」

インドの主な宗教



宇宙観・世界像は
時代や宗教によって様々

(その他色々)



仏教の典型的宇宙観

月

須弥山

太陽

七重の山と海

我々の大地
(南閻浮提)

金輪
水輪
風輪

ジャイナ教の宇宙観の1つ

ローカプルシャ (世界人間)

上半身が天国、
腹部がこの世、
下半身が地獄



ヒンドゥー教① 象がいる宇宙観

地上界の**四方**
あるいは**八方**
または**十六方**
を支える象たち



ヒンドゥー教② 亀がいる宇宙観 「乳海攪拌」



ヒンドゥー教③
蛇がいる宇宙観

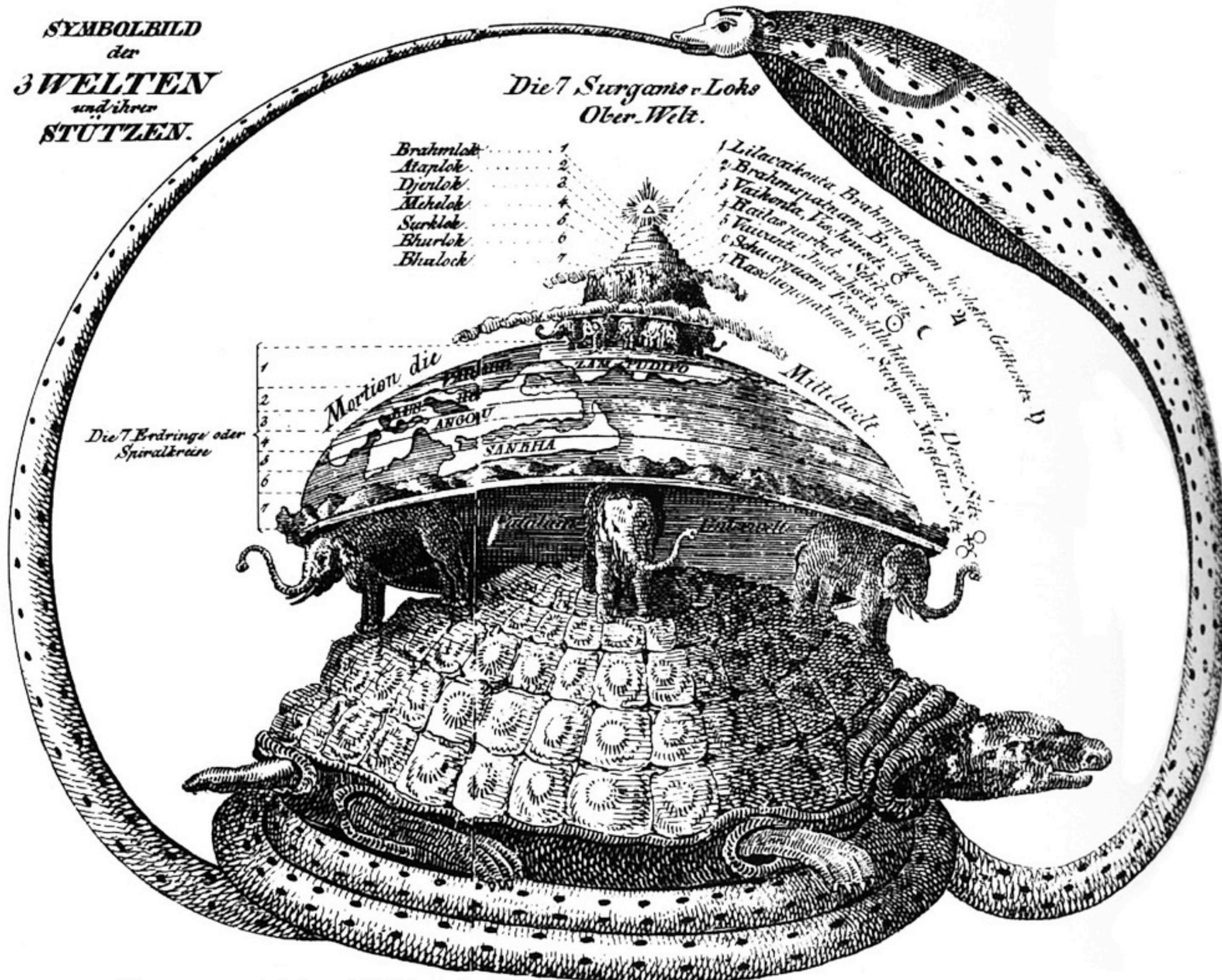
ナーガ＝多頭の蛇

では、この「宇宙観」は
いつ誰が「作った」？



Die 21 Welten tragende Schildkröte, ruhend auf dem Symbol Schutzes und der Ewigkeit, auf der Weltschlange Seschat.

*SYMBOLBILD
der
3 WELTEN
und ihrer
STÜTZEN.*



ジョン・ロック 「人間知性論」 (出版は17世紀末)

(大地もこれを載せるある事物を求める想
像した) 哀れなインド哲学者がこの実体とい
うことばをかんがえついたとさえしたら、苦
労して大地を支える象や、その象を支える
龜を見いだすに及ばなかつただろう。

大槻春彦訳（岩波文庫）より

広まった経緯

- ：16～17世紀の宣教師が最初に西洋へ紹介
- ：「非キリスト教」「時代遅れ」の偏見
- ：ロック以降、たびたび哲学者が言及
- ：誤った宇宙観の典型例として定着？
- ：日本で広まった経緯については未解明

誤解はこれだけではない

そもそも、宗教的な宇宙観と
当時の天文学における知見は別

「地球はどこから見てもまん丸」

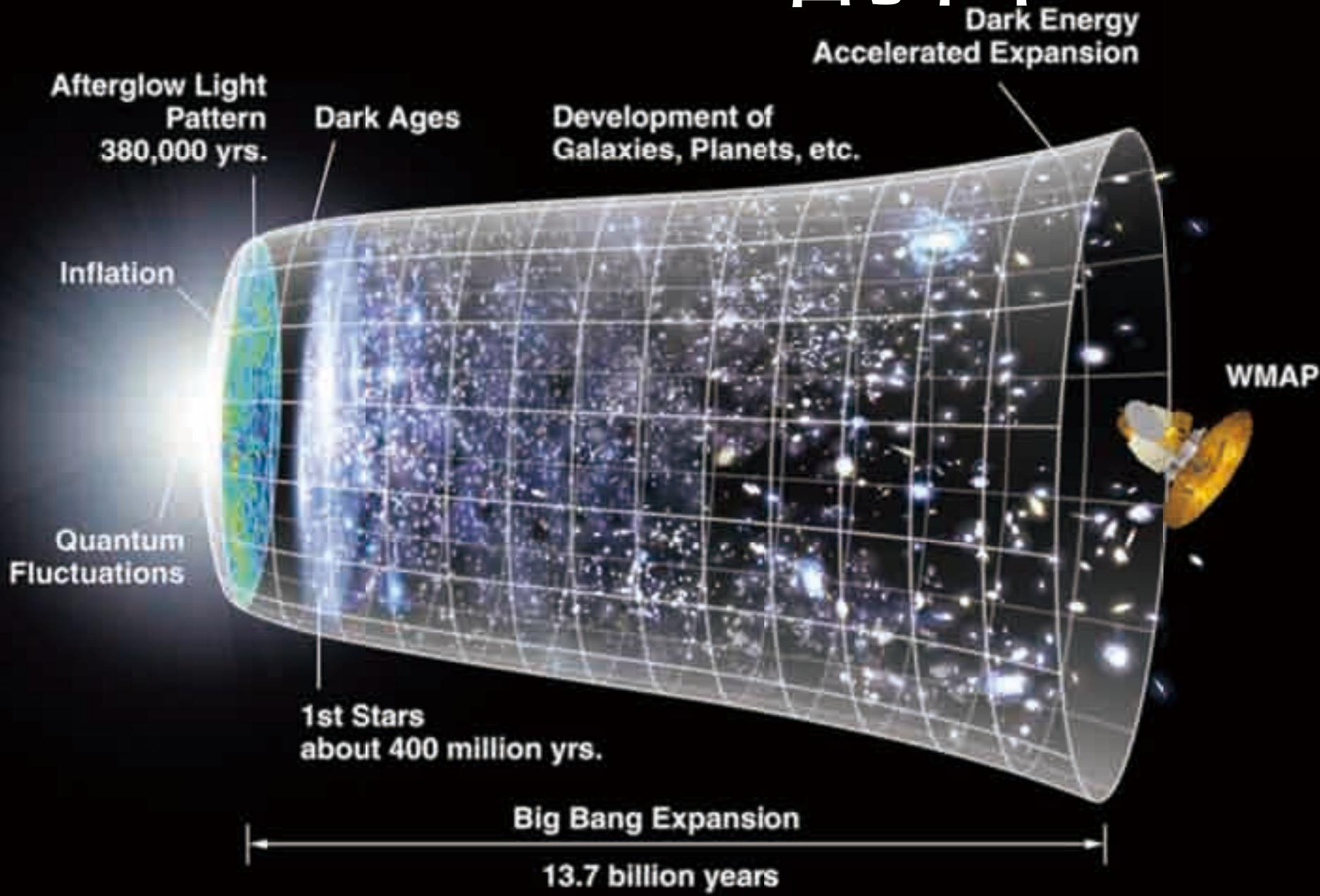
アールヤバタ (476~550年ごろ)



2~4世紀のインドには先進的なギリシャ天文学が伝わっていた

...「でも一部の人だけ」って思いました？

「現代の宇宙観」をちゃんと理解している現代人の割合は？



©NASA

先人への正しい理解と
リスペクトあってこそその
「温故知新」です！